



オタクのすゝめ



アコヤ

このエッセイを読めば、みんなオタクに憧れてしまうはずだと思います。（30代女性）

天ハオタクノ上ニオタクヲ造ラズオタクノ下ニオタクヲ造ラズト云ヘリ

とはよく言ったもので、、、。

ところでこのエッセイは、

何年かに渡ってブログで書いていたものをまとめてみたものです。

こうしてまとめたことによって、いかにして私がオタクへの道を歩み出したのかが、気持ちイイ程に読み取れることが出来ると思います。

というか、私はオタクではありませんが。

期待させていたら申し訳ないのですが、私、キモくないんです。

残念なことに。

それは読んで判断してもらえると嬉しいですが、

私にはオタク的要素がいまひとつ足りず、言わば出来損ないのオタクなんです。

でも書いていることは、オタ話しです。

私ことアコヤと、その彼のおたくんを中心とした、

超エンターテイメントであるオタワールド体験談の実話なのですから。

またいま読むと古臭く感じる言葉もありますが、

時代を感じてもらえれば嬉しいかと思います。

この夏、私の隠れオタクが覚醒された。

では秋葉原に行かねば！

ということで先日、おたくと一緒に秋葉原に行った。

秋葉原は、家具屋めぐり以来、何年ぶりだったかな。

お天気のせいなのか、風が気持ち良かった。

人がごみごみしているのではなく、ゆるい感じだったし。

都心だろうに地方な雰囲気、池袋を思い出させた。

まあ、オタクにやさしい街ってことで一緒か。

さすが、おたくと行く秋葉原は違うね。

同人誌を売っているお店を回ったもの。

同人誌の表紙は、とりあえずおっぱい？

それにデモがかかったた。

超高音女子の声で、イクーって。

∞ループしていたよ。

でもそんなの慣れちゃってたもーん。

エロゲーもふーんになってたから。

そんな私の動揺しない態度に、

『オタクの切符は、片道切符だよ』

なんて恐ろしいことをおたくに言われた。

大丈夫、大丈夫。

なんだかんだで、日本人はみんなオタク文化が好きだから。

秋葉原は面白いよ。

お腹が空いて入ったケンタッキーでは、みんなPSPしていた。

モンハンらしかった。セカンドね。

カウンター席は、コンセントがズラーっとなっていたのにはカルチャーショックだった。

それに、『マイクロSDはじめました』の看板を至る所で目にしたな。

どうやら、安すーく売り出しましたよってことみたい。

それと、不思議なことを発見。

アキバって、漢字で変換すると、秋葉。

秋葉っておかしいよね？

アキバの『バ』は、アキハバラの原のバでしょ？

葉のバじゃないんじゃないん？

秋原。どうでもいいか。

今度は、約束していたお友だちとメイド喫茶だ。

おたくんが、
UFOキャッチャーで
時計を取ってくれた。

私はいままでUFOキャッチャーで、あまりなにかを取れたことがなかった。
それに、ゲームセンターで遊ぶということもしてこなかった。

なので、
UFOキャッチャーの作法も知らなかった。

取ってもらったその時計は、
アームの届かない手前にあった。

おたくんは、わざわざ店員さんと呼び、
場所を変えてもらった。

そこまで、と思ったけど、
取れる位置にしてもらうのは、
オタク界の常識なのかもしれない。

そう思い、私はちょっと恥ずかしかったけど、
店員さんが嫌な顔をせず、移動させてくれた姿を見て安心した。

1回目は、
私がチャレンジしてみた。
しかし取れず、変な位置にしてしまった。

そして二回目はおたくんがチャレンジ。
見事獲得！！

おたくんはお金をかけすぎたかもと、
不満気だった。

でも私は、わーいと時計を取り出した。
が、

ガラスの上に乗っていた数字のメモリが
パカッと取れた。

こ、これは、接着剤でくっ付ければいい。
とりあえず、腕にしてみた、
ら、
サイズが合わない。

私は今日、
その時計を持って
時計屋へ行って来た。
サイズを直しに、525円。

それと文房具屋で、
アロンアルファを買った。
472円。

このなぞの“HASHU”のためにお金をかけた。

ただ、時計屋に行った、もうひとつの目的があった。
それは動かなくなった、
オメガの腕時計を直そうと思っていたからだ。

そう、このオメガの時計が壊れていたのもあって、時計が欲しかったのだ。

でも、オメガの時計を修理するのに
4万円かかると言われてしまった。
あああああ、、、残念。
私は諦めることにした。

オメガが直らなく、しょんぼりしたけど、
私には
おたくんが取ってくれた、HASHUがある！！！！



気付けばお正月。

年末は
母の入退院に
犬の世話からのアレルギー（私は犬好きなのに犬アレルギー）
耳が遠いな、、、そんな風邪を引いたりで、

来年こそは年賀状を
と思っただけで、日々は過ぎ去った。

ところで、クリスマスの話。

やっと、お出掛けが出来る日。
サンタに会いたい！
てことで、サンタを探しに秋葉原に行った。

サンタはあんまいなかった。
男のサンタが多かったかな。

秋葉原にはクリスマスが来ないことを私は思い出し、
コスプレ関係の物を見て歩いていた。
そしたら、ショックな出来事が。

ドンキーにあるメイドカフェの前を通ると、
入り口付近にふたりのメイドさんがいた。
ふたりはアピールなのか、一瞬抱き合っただけで。
けど、そのノリが私にはギャルにしか見えなかった。

メイドの中身がギャルじゃあー、夢も崩壊。
怒りの萎えフラッシュ！！

しょんぼりと、大人のデパートに行った。
それが、まあ、とてもからかい半分で立ち寄れる所ではなかった。
どこの街にもある、ドンキーのエロ的なコーナーとは格が違う。
ほんまもんやー！

だって、店内放送で、
…階SMグッズ、…階ホールグッズ、
それがあたりまえのように聞こえる異空間。

それに、
テンガのデモが流れていて、平気で足を止めて見入っていたし。
髭剃りのCMのような感じで、思わず買ってしまいそうになっていた。

色々見て、一番欲しかったのは、
初音ミクの出来のいいコスプレだったな。

ああ、でもおたくんに、
私は本物のオタクにはなれないと烙印を押されたんだっけ。
納得。

そんな2008年だった。

ハムスターのいない部屋は寂しいな—
たった1週間、預かっただけなのに。

こんなに可愛いとは。

犬のように
お金も手間も掛からないし。

まあ、ちょっと、カラカラ回転音はするけど。

ドールハウスの人形のように、
想像以上に癒された。

後ろ姿は
誰かに似ていて、
大福のように
ぼってりだし。

私がハムスターの可愛さを知ったのは、
去年の夏。

おたくんが突然、
ハムスターを飼う！
と言うので買い物に付き合った。

きっと迷うだけ迷って
買わないパターンかと思っていた。

けれど、
さすがオタク。
買おうと思ったものは買う人種。
惚れ惚れしたよ。

おたくんは颯爽と
ハムスターのお家やオガクズやら餌を持ち、

私は1200円（だったかな？）の

ハムスター入りのビニール袋を渡された。

なんだか箱のサイズからして、たこ焼きを持っているような感覚だった。

そうして歩いていると、おたくんが私に言った。

よく買い物していて、

買った袋をどこかに置いてきてない？ ちゃんと持ってる？ と尋ねるように、

「ペット持ってる？」

と。

確かにペットだけど。

名前がなかったから仕方ない。

そういえば名前。

おたくんの好きな、ピンクの長髪キャラにするのかと思っていた。

でも、それはやりすぎな気がしたらしい。

だから私は、エビちゆにしたら？ て提案したら、

即却下されたっけな。

私は、とっとっこ世代ではないので。

ハムスターといえば、おるちゅばんエビちゆでしょ??

でも結局は、ゲームキャラの名前になってたな。

もっと重症なのは、

萌え擬人化思想で、メスを飼うことに決めていたし。

私はハムスターより、

こんな小さな生き物を飼う

おたくんがかわいいと思ったり思わなかったり。

どっち？

でも実は、このハムスターは二代目。

初代とは悲しいお別れがあった。

私にも責任があったと感じている。

だから、おたくんの留守に預かることにしたのだ。

ハムスターはとても寒さに弱い。

なのに、私はどこかで耳にしていた

ハムスターは冬眠する

ということをおたくんに入れ知恵してしまっていた。

だからおたくんは、寒くっても平気だと思っていたようで。

本当は

寒くなりたての季節は、

特に気を付けなければいけなかったらしい。

そして不幸が重なり、

おたくんが留守にしている間に…

本当にかわいそうなことをしてしまった。

おたくんは、ネットでハムスター用のヒーターを買って

しょぼくれてたな。

もう飼わないのかと思っていたけれど、

部屋にハムスターがいないのは寂しいと。

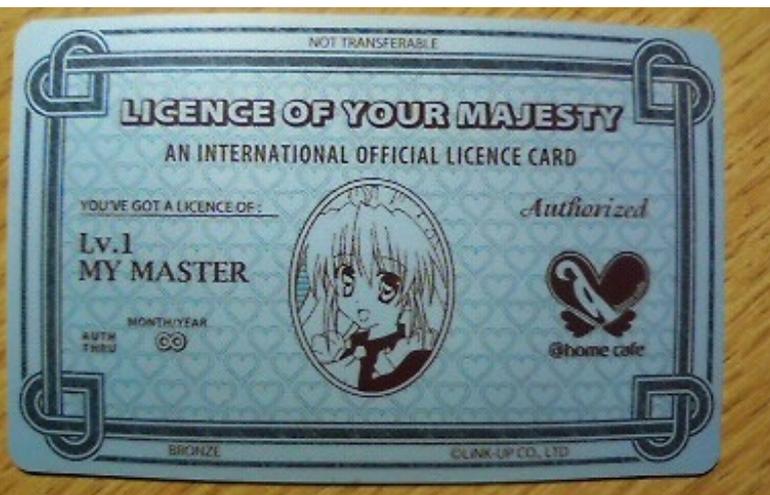
私は初代が、あまりにも可愛かったから、

二代目は可愛くないと言い張っていたんだけど、、、

最近は動画サイトでハムスターを見て癒される程に。

ハムスター、かわいいな。





いまさらなのだが、
メイド喫茶に行ってきた。
女3人で。
違う、
おじょうさま3人で。

さすが私のメイドたち。
粒揃いでしたわ。
まあ、並んで待たされたうえに
お席代で700円とはいかなものかと思いましたが、
納得のメイドっぷりでしたわ。
また行ってあげてもよろしくってよ。

ところで、
私はメイド喫茶に来ているオタクには萌えないことが判明。
メイドさんに対して、積極的なオタクは、ダメ！
私の好きなオタクは、そこにはいない。
モジモジとオドオドしているオタクに萌える。
今日から、モジオド属性とする。

それはいいとして、

もし男の人のお財布から、メイド喫茶のメンバーズカードが出てきたら
迷わずハサミで切って使えなくしてやる。
なんだろうか、この感情。

メイドさんの白くってぷりっぷりっなお肌。

その私には到底なれっこないメイドさんの姿を目の前に、

現実逃避の意味も含め、

2次元からやって来た人だと信じたくなった。

最近ハマった漫画、
木尾士目の『四年生』『五年生』に
ちらっと新宿御苑が描かれていた。

それと、再ブームであろうクリイミーマミを観ていたら、
第19話『マミの一番長い日』で
マミちゃんがロマンスカーに乗っていた。
しかも昔のロマンスカー！！

という二点が合致し、
私はおたくんを誘ってロマンスカーに乗り、新宿御苑へ向かった。

桜も咲き始めていることもあり、
御苑内はいつもより人が多かった。

新宿御苑の近くに住んでいたこともあるんだから、
ここは私の庭よ、
といった具合に案内はまかせておいて気分だった。

ほら、小さいけど水溜り。
よけなくっちゃ。
あーーーー！！
私はデジカメを水溜りに落としてしまった。
携帯のカメラも壊れているのにーーーー！！

おたくんにドジっ子ぶりを残念がられながら、
デジカメの手当てをしていた。
泥を拭き取り、
電源を入れてもレンズの所がパカッと開かないけど
手動でなんとか大丈夫になった。

でもとても風が冷たくって
寒風湿疹なのか、手がしもやけのように赤くなっていた。

そんな私を可哀相がり、

おたくんは暖かい飲み物を探して買って来てくれた。

日向に座れば、ぼかぼかして気持ちよかった。

そしてなにより、花見をしている人たちは穏やかだった。

おたくんが「鳥が鳴いてるね、その木にいる」

といえば、何人か集まる。

見知らぬおぼさんに「くちばしは赤い？」と聞かれ、

「うーん、何色でしょうね」と答えると、

「赤いのだったら、閉館の頃に出口の方にいっぱい集まってくる鳥よ」

「そーなんですか」

と、そんな会話を交わす。

別な所では、ひとりで来ていた中国人留学生風な男性に、

ジェスチャーで写真撮ってと言われ、

失敗して撮り直しするも

またどこかで会ったら撮ってあげたい気分させられた。

みんなあのこの世のものと思えないしだれ桜にやられたはず。

ウメもモモもきれいで、

咲き始めた桜の幹の色っぽさを感じたはず。

そうすると人はあんなにゆるゆるになるのかもしれない。

まさにいまの新宿御苑は、桃源郷だわ。



エイプリルフールに
うそをついた。

それはこういうもの。

『いまヨドバシの帰り。

あのね、ハードディスクを初期化にも出来るっていう

強力な磁石があったから買ってあげたよ。

賢者の石って書いてあった。

これから届けに行くね。』

という内容のメールをおたくんに送信した。

これには訳があって、

おたくんが私に

パソコンなんかの記録の仕方は01だけど

ハードディスクはその代わりに+-なんだよ。

だから磁石の側はよくないんだ。

という話を

永遠にして来たから

お返しなの。

興味のない話を聞かされている時、

ふと思った。

普通、家に磁石ってあるか？

そして3月31日の夜、

私は湯船につかりながらひらめいた。

世のオタクどもが、貰って困るものは磁石なのだ！

ということで、そういうメールの内容になった。

そのメール、

おたくんからの返信はこういうものだった。

『買うな買うなw

まだヨドバシなん?』

もちろん、私はヨドバシなどにはいなかった。

だからそこはスルーして返信をした。

『買ったよ。

つおーい磁石。

持って行くよ。』

おたくんからの返信

『てかヨドバシにいるか教えてよw

ホットプレートの値段見てもらおうかと思ったのに』

あれれ??

ホットプレート???

賢者の石は…

私は負けなかった。

ホットプレートはスルーし、返信。

『あのね、30センチ以内に

ハードディスクは置かないでくださいって書いてあった。』

おたくんの返信

『ちょw

じゃあ次遊ぶ時に持って来てよ～

アコヤのハードディスクが入ったバッグと一緒に』

敵もやるな。

私の期待としては、

もっと焦ってくれるはずだったのだけど。

残念だよ。

結局、

次に遊ぶ日を決めて来たので、

エイプリルフールだったからメールしたと

ネタばらしした。

それから6時間後。

おたくからメールが来た。

『そうかつ

エイプリルフールか』

えっ？ いま??

私はきつねにつままれたような気分になった。

喘息もあり、
湿気のある日はだるい。
かといって、
家に居てうだうだしてたくもなかった。

そんな日に、
前々からおたくんが、
中野ブロードウェイに行こうと
言っていたのを思い出した。

こんな時にちょうどいい。

中野ブロードウェイに行くのは
何年ぶりだっただろう。

でも、
オタクと行く
中野ブロードウェイは違う。

お互いに見たい所があって、
中野ブロードウェイに
泊まれるくらいだった。

逆に、
そんなおたくんが足手まといに
思えるほど。

私が見たいものに、
ゆっくり時間をかけられなかったのだから。

アキバは卒業かな。

ラジオ会館ならまだしも、
アキバは歩き回らなきゃいけないし。

まあ、
中野ブロードウェイには、
やばいエロスのなものはないけど。
801くらいで。

でも懐かしいものがいっぱい。
私が好きなマリオもいっぱい。

それに、
平沢進の曲がエンドレスにかかっているCD屋、
丸尾末広のTシャツが売っている本屋。
感動するわ！

色々見て
くったくったで、
そこかしこにある
昭和を感じる喫茶店に
入ろうと思ったら、
おたくんに
モヤモヤ加減が上級者過ぎと断られた。
確かに、
おばちゃんたちに占拠されてるお店があったりしたけど。

結局私たちは、1階にある
オタクにはオシャレ過ぎるカフェへ。

フローズンチョコバナナ、
うまかったー。

おごってくれたし、ハッピーになって、再び探索開始出来た。

そして買ったものの一部。



シェーツ！と開運ニャロメ ストラップ。



ベルばら好きの友人へと買ったもの。
でもオスカル様が気に入り、お店に戻って私のも。

中野ブロードウェイを出てから、
あれも買えばよかったといっぱい後悔をした。

そんなこんなで電車に乗っていたら、
4階のどこかのお店で流れていた
おニャン子クラブの歌が忘れられなくなっていた。
そして私は電車を降りるとTUTAYAへと直行し、
おニャン子クラブBESTと
うしろゆびさされ組BESTを
借りて帰った。

おニャン子最高！！
セーラー服を脱がさないでの歌詞エロいな。
うしろゆびさされ組ってふたりだったっけ？

うしろゆびさされ組、もう最高！！！！

バナナの涙ってなんだ！！

象さんのすきやんてい？どういうこっちゃ！！

ゆうゆ、かわいいなあ～。

でも中野ブロードウェイで聴いた

おニャン子は

また格別だったな。

あそこは80年代へも繋がっている。

ところで

おたくんはというと、

中野ブロードウェイでフィギュアを2つ買っていた。

そのフィギュアを見ながら

箱は捨てるかどうかの話で、

私が「売るわけじゃないから箱から出しちゃうよね」と言うと、

おたくんが「そうだよ、そういうタイプじゃないから」と。

私は「？」と思った。

おたくんはなにを言っているのだと。

でもそれは私の単なる聞き間違いだった。

「そういうタイプ」を「挿入タイプ」と。

ああ、アキバ卒業はまだ先のよう。

友人ふたりと中野ブロードウェイへ行って来たの。

ふたりとは、

腐女子ちゃんA子と、中野ブロードウェイは初めてというB子。

3人揃ってC学園出身よ。

A子とは卒業以来会っていなかったけれど、

今年と同窓会で意気投合。

B子は中学からの親友。

秘密だけれど、彼女はエスパーなの。

私にだけらしいのだけれどね。

彼女はね、

私の頭の中を覗いたんじゃないかと思う発言をよくするの。

本当にいつもビックリ発言よ。

A子にそのことを言うと「シンクロ率高いんじゃない？」と。

本当ね。

B子の前では、私のATフィールドは最小になるのかもしれないわね。

今回も中野ブロードウェイは予想以上に満喫したわ。

もうお店を絞って見る事が出来るから、

それ程疲れることはなくなったもの。

目的は決めていたの。

ショップメカノで平沢進のライブDVDを買うこと。

それとANIZOというガチャガチャのストラップを買うこと。

そしてそして、同人誌を買ってみようかと思っていたの！

同人誌はおたくんに借りて散々読んではいたけれど、

買うまでではなかったの。

だって、そうでしょ。

私はオタクではないもの。

オタクに萌えるだけなのだから。

だから今回も

A子が同人誌を漁っている姿にどれほど萌えたことか。

しかも踏み台に乗って必死よ。

なんとかわいらしい！

それにね、前回買ってイマイチだった同人誌をちゃんと売っていたの。

同人誌を売る腐女子とお友達になれるなんて、私ったら幸せ者。

B子かというと、引いているのかと思いきや、

ぐるりの同人誌を買おうとしていたの。

私は慌てたわ。

B子が私を追い抜こうとしているのだから。

待って、B子！

そんなに先に行かないで。

A子に見とれている場合ではなかったのよね。

でもね、

分からなかったの。

私はなんの同人誌を買えばいいの？

A子はオードリー。

じゃあ私は、チュート？

それともブラマヨ？

私も必死よ。

その姿はA子のようにかわいらしかったかしら。

そして結局、私が選んだのは、エヴァもの。

カヲル×シンジ

トウジ×シンジ

を買ってみたわ。

これで同人誌を買う女としてデビューよ。

でもね、おたくんにエヴァものを買ったと誇らしげに伝えたら、
冬月×ゲンドウとかじゃないんだねって、
まだまだだねみたいに言われてしまったの。

くやしい！

けれど仕方ないわ、
私はオタクになれないのだから。

でもね、トウジ×シンジ、よかったわ。
これで少し成長ね。

また、A子はね、
色々なものを貸してくれたの。
A子のオススメのムーンライダーズのCD。
それと椎名林檎のCDもよ。

A子はこっち系も好きなの。
そして『エリノア』という本も借りたわ。
これすごいの。

このせいでこんな文章になっているの。
こんな本初めて。
見た目は、同人誌なのだけれど、
色んな意味で本の存在を考えさせられたわ。
書くということも。

それとA子は、私に貸してくれるという漫画を郵送してくれるらしいの。
もう憧れちゃう。この貸してくれる勢い。
言葉が出ないほどうれしかったのよ。

神様は私にぴったりのオタクを用意してくれたのね。

いえ、もしかしたら
A子はオタク界からやって来た女神かもしれない。
ああっ女神さまっ。

なにか、違うわね。

そうだわ、妖精さんかしら？

そうよ、きっと妖精さんだわ。

私に魔法をかけて、オタクに変身させてくれるのね。

(うーむ、今日は頭がファンタジーーーーーー。)

おたくんとどこかに行こうという話になり、
ああだこうだと迷ったけど、
和っぽい所がいいということで、
浅草に決定した。

浅草には行ったことがあったけど、
オタクと行くと違った意味でも楽しいよなあ。

浅草に行く決めてから、
なんとはなしにネットで調べていたら、
一生に一度でいいから
花やしきのローラーコースターに乗りたい
という気持ちが湧き上がって来てしまったんだよね。

でもこの気持ち、恥ずかしいような。
けど、ずっと憧れていたあのローラーコースター。
日本最古だということはよく聞くし。

その胸の内をおたくんに言ってみたら
こんな返事だった。

「そういえば、花やしきのチケット持っていたな。もう期限切れてるけど」

花やしきに興味が御有りて？

と思ったら

「サクラ大戦のゲームを買ったら付いてたんだよね」

だと。

おたくんは「いいよ、行こうよ」
と言ってくれたので、

私はネットで前売りチケット買うとお得らしいよと伝えた。
すると直ぐに頼んでくれた。

オタクはいいよなあ。
花やしきもあっさり承諾してくれるのだから。

だから私は
浅草に行く前に、
一人カラオケで
サクラ大戦の歌を三度も歌い、
花やしきに備えた。

花やしき、楽しかったな。

入って、驚いたけどね。
メリーゴーランドの前にいた係りの人が
立ったまま居眠りしているんだもの。
人がいないから分からないでもないけど。

花やしきは、
昔懐かしのアトラクションと遊園地の狭さとが
なんともアットホームで癒されるんだね。

でも
久々の遊園地で、乗り物が怖かった。
大好きだった
びっくりハウスでさえ、
三半規管壊れそうで目をつむってしまったよ。

憧れのローラーコースターは爽快だったけど。
二度も乗っちゃった。
ちゃぶ台の前で驚く人もちゃんと見れたし。

あと、人がいないことをいいことに、
パンダにもまたがって乗っちゃった。

それにメリーゴーランドにも。

おたくんがいけないんだ。

私の心を自由にさせ過ぎるんだ。

でも夢が叶った。



浅草って、かっこいいよな。

どこの景色も絵になるし、

ちょっとした路地が魅力的なのだから。



私とおたくんは浅草を堪能するために、
仲見世できびだんごとぬれせんべいを食べ、
お土産にあげまんじゅうと雷おこしと人形焼きを買って帰った。

ネットで、コミケが始まったと知った、8月13日の金曜日。
コミケに行ってみちゃおうかな、という衝動に駆られた。
いままでは、いつかは……で、止まっていたのだけれど。

コミケに行くんだ！　と思い立ったはいいけれど、不安があった。
夏のコミケは暑くって臭いと、噂では聞いていたし。
暑いのが苦手な体力には自信ないし。
それに臭いってなに？　みたいなの。

あと、コミケの作法みたいなのが、まったく分からなかった。
コミケ会場入り口にゲートがあって、
オタクじゃない人が入るとブーって鳴って、
オタクの人たちから白い目で見られて辱めを受ける、、、とかあるのかな？
なんて、いらない想像してみたり。

それはしないにしても、オタクの聖地を汚してはいけない。
勉強しなくてはなって思った。
それで、C78コミックマーケット注意事項というものを読んで勉強した。
午後から行くと待たずに入場出来るとか、
日傘はダメとかね。

私がコミケに行く目的は、まずどんな雰囲気なのか体験してみたかったということ。
それと岡田斗司夫の『ひとり夜話vol.2』を買うこと。
で、余裕があれば、コスプレ広場を覗いてみたいというくらいだった。

そして当日。



意外とすんなり東京ビックサイトの中に入れた。
冷房などの効いていない、会場にだけど。

私、知らなかった。

体育館の匂いって、汗の匂いだったのね。

コミケに来て、初めて知った事実。

でもせっかくコミケに来たのだから、という気持ちだけで、
にこにこ顔で売り子をする岡田斗司夫さんを見つけて
ひとり夜話の本を買うことが出来た。

もうそれだけでぐったりだったのだけれど、
帰る前にコスプレ広場に寄ってみようと思った。

強烈な日差しの中、帽子をかぶって広場内を移動した。

わーお。

かわいこちゃんいっぱい、パラダイス！

私の好きそうな、がんばって女の子キャラのコスプレしてるかわいこちゃん男子がいたよ。

じろじろ見ても怒られな一い！ きゃほ一。

本当はね、「写真撮らせてください」って言いたかった。

すごく。

でも、知らないキャラのコスプレを撮ってしまうのは、なんだかよくない気がして。

だから、

絶望先生とサンジのコスプレをしている人の写真を撮らせてもらった。

写真を撮るといふ行為は、結構特別なものなのだな、なんて感じた。

いままでまったく知らない人に声をかけて写真を撮ったことなどなかったから。

カメラ小僧さんたちの気持ちが分からないでもないなって。

ちょっと快感。

絶望先生の人は首つってくれるし、サンジの人はカメラ目線でかっこよかった。

ふたりともやさしかったな。

サンジの人など、撮った後、「ありがとう」って言ってくれたっけ。

「ありがとう」ってどういうことだ？

撮らせてもらって、お礼を言ったのは私の方なのに。

でも考えたら、あの場では、興味を持ってもらうこと自体に価値があったのかもなって。

そんでもって、アホみたく興奮してる私に「ありがとう」だったのだな。

だって、サンジを目の前にして「かっこいい」って言ってたわけだし。

そんなことが理解出来た、初コミケだったな。

だから、気になってたけど素通りしてしまった、

鉄道ファンらしき人たちの同人誌やキーホルダーを手取るだけでもすればよかった。

売り子の人たちも見て行ってくださいって、本を差し出してたわけだし。

悔やまれる。

コスプレ広場を後にするのは惜しかった。

きれいな女の人の写真も撮りたかったけど、

囲んでいるのは男の人たちだから行きづらかった。

それに、どこかに消えてしまったマリオを探しに、もうひと回りくらいしたかった。

でも、暑くって。

一緒に来てもらった彼は、死んだ目をしていたし。

後で聞いたら、

コスプレ広場を2周もすると思っていなかったって言われちゃった。

暑い所に連れて行ってしまった上に、

コスプレイヤーさんたちの写真を撮っている時、

彼が私の側から離れていたから、

ヤキモチやかさせちゃって、悪かったなって思っていたのよ。

だから、彼に確認してみたんだ。

「ヤキモチやいちゃった？」って。

そ、そしたら、、、

「あっちの人になってたから、離れた」

だって!!!!

いやーー!!

ちょっと待ってよ！

私を「オタクの道は片道切符だよ」って言って導いてくれてたあの彼が？

うそ!!

私、いつかウルトラ警備隊になりたいのに？

ま、そんなショックなこともあったけれど、

コミケのおかげで、冷房の効いている場所にいられるだけで幸福だと思えたし、

家に帰ったらこれほど落ち着く場所があったのかって、実感出来たわけで。

それに、シャワーを浴びて、ご飯を食べたら、

小学生の夏休みかのように深い深い眠りにつけた。

夏が嫌いだったけど、この感じ、悪くない、と思えた。

コミケ、また行きたいな。

もっといっぱい書きたかったけど、長くなり過ぎだからこの辺で。

読んでくれてありがとう。

今回こういう形で本にしてみても、ブログっていいな、なんて改めて思いました。最近ではツイッターで書きたい意欲を満たしがちですが、ブログはその人に対しての信頼度も上がるし。あわよくば、私の小説を読んでもくれる人が増えるかもしれないし。また書き始めようかな。

この本の内容はmixiとオタク電腦ブログで書いていたものです。

mixiではもう書くことはないと思いますが、オタク電腦ブログは続けていくつもりです。

また、今回載せていないものも、オタク電腦ブログにはあるので、よかったら見てみてくださいね。

それではまた、どこかで。

【オタク電腦ブログ】 <http://nuruota.otaden.jp/>